

## その子らしく学べるように

年 組 番 名前

茅野市の学習塾代表の小松恵さんは、諏訪市のJR上諏訪駅前に開設された松本国際高校（松本市）通信制課程の学習支援拠点のセンター長も務めています。小学生から高校生までと、どんな思いで関わっているのか、記事を読み取りましょう。

① 小松さんが、子どもたちに教える面白さを感じ始めたのは、いつ頃ですか。

② 小松さんは約10年前、どんな学習塾を始めましたか。それは、教え子の中にどんな子どもがいて、何が必要と考えたからですか。

始めた学習塾―

教え子―

必要と考えたこと―

③ 「お散歩」の時間に、具体的に何をしていますか。また、子どもたちからは、何と好評ですか。

お散歩の時間―

子どもたち―

④ 小松さんは2年前から、学校と保護者をつなぐ取り組みとして、何をしていますか。

⑤ ほぼ毎日子どもたちと向き合っている小松さんは、何をつくりたいと話していますか。

「わははは」。茅野市豊平の学習塾「グロウイングアップスクール」の教室で子どもたちの元気な声が響く。小学生から高校生までがコの字形に並んだ机で一緒に学んでいる。学校や学年の違い、勉強の得手不得手は関係ない。目指しているのは、子どもたちが自分らしく自由に学び過ごせる場所だ。

通常は学習塾の代表。5月15日には諏訪市のJR上諏訪駅前

# 憩い 語らい

の駅前交流テラス「すわっチャオ」2階に開設した松本国際高校（松本市）通信制課程の学習支援拠点「諏訪学習センター」のセンター長に就任した。子どもたちに教える面白さを感じ始めたのは、イスラエルと米国への語学留学から帰国した25歳の頃だという。当時、家庭教師のアルバイトにやりがいを感じるようになり、これまで諏

訪地域で学習塾の講師などとして働いてきた。

教えるの中には、読み書きが苦手だったり、不登校だったりといった子どもがいた。一人一人に合う「伴走」が必要ではないか。約10年前、子どもの自主性を促す「アクティブラーニング」を取り入れた学習塾を始めた。

「今日は何をやる?」。5月下旬、教室の子どもたちに声をかけた。学習塾には下校後、子どもたちは好きな時間帯に訪れる。学校や塾の宿題を終わらせた後は、英語検定や漢字検定の勉強などに自由に取り組む。講

学習塾代表・松本国際高諏訪学習センター長

こまつ めぐみ  
小松 恵さん 54歳 茅野市



師が子ども一人一人と対話しながら答え合わせをすることもある。「家庭教師と塾の良いところ取りです」

学習塾には文章から情報を読み取ることが苦手な子どももいる。そんな時は言葉で問題を伝えるようにしている。集中力が続かない時は子ども同士で励まし合って机に向かう。何人かが歌い出したり紙飛行機が飛び交ったりする時間帯もあるが、やがて自然に机に向かう。

「お散歩行くよ」。課題が終われば子どもたちが待ち望んだ「お散歩」の時間。小学生から高校生まで一緒にあぜ道を走



り、塾の裏山を探検する。子どもたちからは「リフレッシュになる」と好評。散歩に行くため

「お散歩」の時間に裏山に向かって走る小中学生たち

に集中して課題を終わらせる。子どもたちは遊びを通して打ち解けていく。「自分を受け入れてもらえる場所があることは、その子にとっての安心安全な場所につながります」

2年前、学校と保護者をつなぐ取り組みを始めた。両者を仲介し、読み書きが苦手な子どもが勉強しやすくなる工夫や塾で勉強に向かう姿を学校側に伝え

ている。上諏訪駅前の施設に通信制の諏訪学習センターを開設したのは学習塾の経験があるからだ。自分のペースで学びたい生徒や通学がなくなった生徒のための場をつくりたいと考えている。「学校に行くことが重視されるけど、どこで学んでも別にいいじゃんって。学ぶ場所は自由」と話す。

学習塾に通信制の学習センターに、土口曜日も含めほぼ毎日、子どもたちと向き合っている。休みはそう多くない。それでも「子どもたちが子どもたちらしく過ごせる場所、時間をつくりたい」。そんな思いで伴走している。

その子らしく学べるよう「伴走」を



## その子らしく学べるように

## 解答例

年 組 番 名前

茅野市の学習塾代表の小松恵さんは、諏訪市のJR上諏訪駅前に開設された松本国際高校（松本市）通信制課程の学習支援拠点のセンター長も務めています。小学生から高校生までと、どんな思いで関わっているのか、記事を読み取りましょう。

①小松さんが、子どもたちに教える面白さを感じ始めたのは、いつ頃ですか。

【解答】 イスラエルと米国への語学留学から帰国した25歳の頃

②小松さんは約10年前、どんな学習塾を始めましたか。それは、教え子の中にどんな子どもがいて、何が必要と考えたからですか。

始めた学習塾―子どもの自主性を促す「アクティブラーニング」を取り入れた学習塾

教え子―読み書きが苦手だったり、不登校だったりといった子ども

必要と考えたこと―一人一人に合う「伴走」

③「お散歩」の時間に、具体的に何をしていますか。また、子どもたちからは、何と好評ですか。

お散歩の時間―小学生から高校生まで一緒にあぜ道を走り、塾の裏山を探検する

子どもたち―リフレッシュになる

④小松さんは2年前から、学校と保護者をつなぐ取り組みとして、何をしていますか。

【解答】 両者を仲介し、読み書きが苦手な子どもが勉強しやすいくなる工夫や塾で勉強に向かう姿を学校側に伝えている

⑤ほぼ毎日子どもたちと向き合っている小松さんは、何をつくりたいと話していますか。

【解答】 子どもたちが子どもたちらしく過ごせる場所、時間